



# のびのび若っ子

## 学校再開にあたって

校長 中島 早苗

校庭や若葉台のまちに美しく紫陽花が映える季節となりました。長い臨時休業期間中、ご心配や不安を抱えながらも、学校の取組にご理解ご協力をいただいたことに深く感謝申し上げます。

5月25日に緊急事態宣言が解除されました。本日より、感染症拡大防止の取組を行った上で段階的に学校教育活動を再開いたします。

本校では、初めの2週間、クラスをA、B二つのグループに分ける分散登校を行い各クラスの人数を抑え、換気やエアコン等の適切な使用によって学級内の三密（密閉、密集、密接）を避け環境を整えます。また、長い休業期間開けですので、「友達と毎日会う」「担任と毎日会う」「学校の楽しさを毎日味わう」ことを大切に考え、午前午後の分散登校としました。A Bのグルーピングは、登下校の安全面や兄弟関係を考え、全学級が密を防ぐ最大人数を超えないよう自治会を組み合わせで行いました。教員は1日に2回同じ授業を行います。会えないグループの友達とも心をつなぐ工夫もしていきます。

再開にあたって教職員とともに子ども達を迎える基本方針、心構え、心のケア、保健衛生上の注意点等の確認や研修をして準備を重ねてまいりました。第一期（分散登校）では「子どもの心のケア」「生活リズムの安定」を最優先とします。担任を中心として「学校に来てよかった」「明日が楽しみ」と思える活動を創ります。三か月に渡る学校休業。どの児童も不安等を抱えている、あるいは抱えているストレスに気づかないままになっていると、考え、児童支援専任や専科教員（本校の場合、担任ではない教員はわずかですが）も学級や児童の支援を行います。全職員で感染拡大防止に努め、午前午後の入れ替え時と午後終了後の2回、教室、トイレ、階段の手摺等の消毒を行います。登校時に健康観察票で健康状態の把握をします。ご家庭においては、丁寧な健康観察と、健康観察票をクリアファイルにはさみ手提げに入れて持たせることを確実に行ってください。学校にとっても異例の事態であって、私達もこれが正解とは言いきれません。限られた職員数、学校規模や環境を勘案して本校にとっての最適を工夫しました。

ご家庭においては、様々なご心配はあるかと思いますが、まずは子ども達が元気に登校できるような声かけをお願いします。

未来を創る子ども達のために、学校ができること、ご家庭でできることを連携して行っていきましょう。地域の方におかれましても、引き続き温かく見守っていただければと存じます。

若葉台小学校学校教育目標

『自他共に大切に作る心を育みます』『意欲的な学びの芽を育みます』